

会員レポート

長崎燈會に出演しました 熊野俊雄（長崎教室・指導員）



2月5日(土)と11日(祝)に孔子廟会場で長崎燈會（ランタンフェスティバル）のイベントとして八段錦と楊名時24式を披露しました。

2日の前夜祭には周辺自治会住民等600名と共に孔子廟教室の仲間が招かれました。理事長、中国総領事、副知事、市長の挨拶があり乾杯の後、歓談や廟内見学をしました。屋台が並び飲物や食物が提供される中、ランタンの華やかな光を浴びつつ、ビールに心みながら来る日の演舞の成功を祈念しました。

期間中無料開放された17時～21時の来場者数1日平均5千人。
演舞は18時からだった。↓クリックすると大きくなります。



さて本番の5日夕刻、開場前から孔子廟の門前は黒山の人だかり（推定500人）。
「楊名時太極拳の人気か？ 何事ならん？」と訝りながら各教室からの参加者15名に支部長より立ち位置と演舞内容の説明がされました。

チャイナドレスの麗人の司会で入場した中庭は紅絨毯がライトアップされ72賢人像と三方の回廊を埋める観客との視線が集中し緊張感と逸(はや)る心が混じった春宵の気配。



左●寒い中、多くの方が一緒に動いてくださいました。
右●一番手前が熊野さん。2010年秋より孔子廟教室担当。

長谷川くみ子支部長から「太極拳は礼に始まり礼に終わります。孔子様と観客の皆さんに感謝します。普段の稽古内容を演舞します。できる人は是非一緒にどうぞ」と挨拶があり、立禅、ス

ワイショウ、八段錦、24式、八段錦、立禅、スワイショウと演じました。



支部長の先導と発声で息の合った素晴らしい演舞になりました。演舞者の白の空手着と黒装束のコントラストは巧まらずして調和していました。



カクテル光線を浴びているため、はっきりとは見えないけれど、回廊では一緒に手足を動かす人もかなりあり、カメラのフラッシュはしばしば閃光しました。終了時には盛大な拍手を頂き、潮が満ちるようにしみじみと達成感が込み上げてきました。

11日は参加者20名が更に大勢の観客の前で演舞しました。その夜は再び寒波が襲来し翌朝は一面の雪化粧。一仕事終わった後の清々しさを感じながら、来年も良い演舞ができるように稽古に精進したいと改めて心に決めた長崎燈會の出演でした。

11日の記念写真。クリックすると大きな画像が出ます→

